

# 公共施設の再編に関する意見交換会 概要報告

日時 令和元年11月1日(金)18時30分～20時20分  
場所 湯沢雄勝広域交流センター 第1研修室  
対象地区 湯沢地域(湯沢北中学校区)

参加者 27人

内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
湯沢地区	20	19	1	0			0			1		1	1	1		7	7		10	10		1	1	
弁天地区	3	3	0	1	1		0			0			0			0			1	1		1	1	
岩崎地区	1	1	0	0			0			0			0			1	1		0			0		
幡野地区	3	3	0	0			0			0			0			1	1		2	2		0		
その他	0	0	0	0			0			0			0			0			0			0		
計	27	26	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	9	9	0	13	13	0	2	2	0

市出席者 湯沢市公共施設アドバイザー、  
総務部長、企画課長、企画政策班長、担当

## 概 要

開 会

あいさつ

総務部長



説 明

- (企画課)
- ① 公共施設を取り巻く課題
  - ② エリア別の公共施設再編方針(案)の概要
  - ③ 集会所の地元譲渡にかかる支援策の概要



## 概 要

### 情 報 提 供

湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏



### 質疑応答、 意見交換



○公共施設の利用率の算定方法を教えてほしい。

⇒(市)貸出可能な部屋を午前、午後、夜間の利用に区分し、年間の利用可能な枠数に対し、どれだけ利用実績があったかを算出した。

○利用者数は全く勘案していないのか。学校施設についてはどのように算出するのか。総合体育館や文化会館など、それぞれの施設で算定基準が違って当然だと思うが。

⇒(市)利用率については、あくまでも誰もが借りられる条件の施設で算出しているため、学校の利用率は算出していない。総合体育館は、貸出可能な施設であり、全体に対する利用率は算出できる。ただし、部屋を3人で使っても50人で使っても利用率は同じであり、人数と利用率は比例しない。利用人数はあくまでも参考数値としていただきたい。

⇒(アドバイザー)湯沢文化会館などは大きなイベントがあると1,000人以上の収容人数となるため、利用人数だけで判断はしない。いろいろな自治体でも、利用者数は参考数値としては出しているが、人数が多く使っているから、たくさん使われているというのは、少し誤解があると思う。利用率と利用人数両方の数字を見ながら精査しなくてはならない。再編計画中間案の本編には利用人数についても記載しているため御確認いただきたい。

○今回示された内容は湯沢地域では中心市街地のみで、岩崎、幡野、弁天等それぞれ地区センターがある地区の再編計画については無いのか。具体的なものができた場合には、各自治組織等に対して説明をする機会をもってもらえるか。

⇒(市)地区センターについては、再編計画中間案に今後の方向性など、どのような対応をするのかを記載しているので後ほど御確認いただきたい。地区センターは特に地域住民の皆様の活動拠点であるため、市としての案はあるものの、実際に再編等をする際には、地域の皆様、自治組織の皆様を中心とした話し合いを重ねていくことになる。その際は、改めて御説明、御相談させていただく。

○今回の案は非常に進んだという印象で、より具体性が増してきたと思う。今回の豪雨災害を見て特に感じたことだが、幡野地区は平坦で山も高台もなく、川3本が集中してしまう、下流域に位置している。これから学校統廃合により空き校舎が増えると思うが、解体にも多額がかかるのであれば、若干手を入れて防災施設にしてもらう必要もあるのではないかなと思った。

⇒(市)現在市には指定避難所が33か所あり、ほとんどが学校の体育館や大規模な施設である。長期化を想定して、避難所として機能を果たせる施設を指定している。有事の際、市が保有している建物は一時的な避難場所にはなるかと思うが、今回の災害のように想定を超える場合が課題だと感じている。市民の皆様をお願いをしたいのは、何か災害が起こった際は、行政が全てを一斉にはできないため、一時的に、地域、集落、コミュニティ等で最寄りに集まり、指定避難所に移動していただくというのも一つの方策かと思う。また、まだ使える建物で遊休になっているところの防災利用についても考えなければならないと思っている。

⇒(アドバイザー)教育委員会から学校再編計画が示された。具体的なことはこれからの話だが、仮に学校が廃校になったとしてもすぐに除却することではなく、どうやって有効活用できるかということとを先に検討する。行政と地域が、どういうところを使うことができるのか、使いきれなければどうしていくのか、民間のノウハウを活用して、貸す、売るといった話も出てくると思う。それでも使い道がなかった時には、将来的に除却となると思うが、それまでの間にさまざまな検討がされるということをお理解いただきたい。

○スケジュールも掲載されているので、このとおりに進むのだらうと理解しているが、湯沢地域の中心部には地区センターが無い。自治組織の会議を開催する際は、湯沢生涯学習センターを利用しているが、駅前に移転されると利用が困難になる。

⇒(市)スケジュールは現在の予定であるが、これを目指して進めたいと考えている。自治組織の活動拠点として湯沢生涯学習センターを御利用いただいているが、現在の生涯学習センターは老朽化し、さらに土石流・急傾斜警戒区域に含まれているため、駅前に他施設との機能を複合化、多機能化して整備するプランを示したところである。例えば市役所の2階会議室も、平日・土日祝日とも夜10時まで集会ができる機能を備えているので御利用いただきたいと思う。専用の建物がなくても、活動、集会、話し合いの場が最寄りの公共施設にあるとすれば、そこを御利用いただきたいが、活動拠点をどのように持ちたいか、自治組織としてのお考えをお聞きしたいと思う。湯沢地域の一部だけでなく、稲川地域にも地区センターが無い地区もあるため、実際活動されている自治組織の皆様と話し合っ、活動拠点を位置づけられたら良いと考えている。

○建物が維持できなくなった際、大きい建物で古くて維持費がかかるものは壊すこと前提で進めていかなければならないのではないかと。もったいないから、いつか使うからといって残しても、その維持費はどうするのか。絶対減らさなければならぬのだから、壊すことを前提に話を進めて、残さなければいけないところを絞って拾い出す方法が良いと思う。

⇒(アドバイザー)市で策定した公共施設等総合管理計画では、更新費用から延床面積を45%減らすという高い目標を掲げている。昨年から一つひとつの施設を見て、本当にこの施設は今後必要なのかどうか、ハコだけが必要ではなくて、中でやっていることが今後にも必要なのかということを検証した。立派な体育館だから残すということではなく、体育館は市民の皆様の健康づくりやスポーツ活動、競技力を高めて国体やオリンピックに出るような人を育てていくための場となるのだから必要であるというように、理屈を考えて整理をした。再編計画中間案では、各施設について、こういう理由で残す、こういう理由でやめる、と明記している。また、施設の中身が必要なければやめる、しかし、施設がまだ使えるならば、寿命が来るまで他の形で使う、という整理をしている。御指摘のように、残すものはどれなのかということを見繕って、耐用年数を超えても20年、30年使えるように、ちゃんと手を入れていくプランにしている。その具体的な施設の改修計画は、令和2年、3年にまとめる予定になっている。また、処分しなくてはならない施設も整理して、明記することになる。今の時点ではまだ書けないものもあるため、それは検討するということになるが、関係者の皆様と協議を重ねながら、しっかり書いていけるように努力する。

⇒(市)中身がなくハコだけ残った際は、老朽化して耐震性もなく、もう使えないとすれば解体の方向だが、解体にも費用がかかるため、周りの環境に影響するものから順番に進めている。一方で、中のサービスはいらなくなったがハコがまだ使えるという状況であれば、さまざまな転用、あるいは民間の企業で使っていただくということで、小野小学校や岩崎小学校など実際展開をしているものもある。

○公共施設の再編計画については、利用実態を精査したうえで多機能化、複合化を進めているとのことだが、施設の移転イコール利用者の移転で、人が付いていかないと意味がないと思う。施設が利用できなくなれば、それに代わる施設がどこになるのかという課題もある。いろいろな会議をしていると思うが、利用者を対象にした会議では、どのような問題、課題が出ているか教えてほしい。

⇒(市)3月に中間案として全ての施設の方向性を出したが、その中には機能移転とした施設もある。そういった施設に関しては、4月から6月の間に利用されている皆様、利用団体などに、市の考え方を説明して、意見交換などを行っている。意見交換の中では、施設が遠くなってしまうという御意見をいただいた施設もあり、現在も継続して協議をしているところである。

○このような再編計画は行政主導型で進めなければ、先に進まないと思う。利用者の気持ちを汲んだ形にすれば、行政主導型でも問題なく進んでいくのではないかと。と思う。

⇒(アドバイザー)あまり行政主導型に進めると一方的な話になってしまうので、私から市にお願いしているのは、懇切丁寧に説明して、御理解いただける合意形成を図ってもらうことである。今お話があったように、ユーザーの方々の意見も重要だが、一方で、オーナーの意見も重要だと思っている。実際施設を利用されていない方にもお集まりいただいて、皆様の忌憚のない意見をお聞きしたいということで、こういう場を設けさせていただいているので、ぜひオーナーの立場で御発言いただけるとありがたい。

○湯沢北部地区自治協議会の周辺で会議ができる施設は、老人福祉センター位しか思い付かない。老人福祉センターが廃止になったら、どこで全体会をやればいいのかと話し合ったが、ありがたいことに各町内のほとんどが自分たちの会館を持っている。町内単位でのコミュニティが一番重要なのではないかという話をしているが、町内会館を維持していくのも大変苦労しているので、市の支援があれば良いと思う。また、自治組織を立ち上げてから市全体で1万人以上人口が減っている。どこの地区も同じような施設体制にすることは厳しいと思うので、地区ごとの年齢層の変化が分かると考えが変わってくるのではないか。老人福祉センターを廃止して、湯沢雄勝広域交流センターに移転することは大変良いことだと思うが、立地の面から湯沢北部地区自治協議会の会議はやらなくなるだろうと思う。もう少し小さな単位での地域コミュニティに対する行政の考えを聞きたい。

⇒(市)町内会単位の集会所に対しては、新築や増改築に対する経費への補助制度がある。維持経費への支援措置は講じていない状況ではあるが、自治組織の活動に対する交付金はある。人口減少時代のなかで、町内会の自治活動を維持していくためには何が必要なかを、今、改めて考え直す必要があるということで、市では協働事業推進課が自治組織の皆様と意見交換の場を設けている。現在の自治組織は、市町村合併時に作ったものであり、前回の意見交換会でも、中心部の分け方が地域の実際の繋がりと違うという御意見を頂戴している。区割りを含め、地域住民の皆様により協議していただき、市としても支援の仕組みを考えていきたい。地域ごとの人口については、来年度、協働事業推進課が細かく示す計画をしている。

⇒(アドバイザー)担当課には、一番大切なことは、地域の持続性をどう支えていくのか、地域の活性化をどう図っていくのかであり、そのために地域の皆様にやってもらいたいことと、行政が担う役割を明確にしなければ、地域の皆様の御協力を得ることはできないということを伝えている。それを含めた全体のプランを然るべき時期に出すので、もう少しお時間をいただきたいと思う。

○利用率について、1日いっぱい地区センターを使うことはないと思うので、それで決めるのは厳しいのではないか。

⇒(市)利用率が何パーセントだから良い、悪いということではないが、施設の利用状況を見るうえでの参考として考えてほしい。

○中学校の部活動では、学校の体育館だけで足りないため、地区センターを利用している。地区センターがなくなった場合、学校の部活動はどうするのか。

⇒(市)市としては、地域活動の拠点として地区センターは継続する方針である。学校の部活動では、地区センターに限らず公共施設を利用されている状況である。

○放課後児童クラブについて、今の人口から数年後の児童生徒数が分かっているはずなので、他の施設に移転してから、さらに校舎内に移転するなど、二度手間になって無駄なお金がかからないよう計画的に移転を進めてほしい。

⇒(市)放課後児童クラブの配置については、子どもにとっても保護者にとっても学校校舎内に配置することが良いという市の基本方針であるが、現在の教室の状況から学校内への配置は難しい。余裕教室の推移は、この先7年先までを把握しているため、それを踏まえて対応していきたいと考えている。今回示した内容については、一人当たりの面積が基準を下回っているということに着目して、最低限のところに対応するための措置であるが、先々の見通しを持ってという御意見を踏まえ、無駄にならないよう、今後のあり方を計画していきたい。

⇒(アドバイザー)放課後児童クラブに限らず、今年工事したのに何年か後にまた違う工事をしていたという二度手間、三度手間でお金を無駄遣いすることがないように、一つの施設を改修する時は周辺の施設はどうなのかというように、エリアで面的に見るためのプランとなっている。

○湯沢生涯学習センターが無くなれば集会できる施設がなくなるので、駅前に建設する際は、会議室等の集会施設を設置してほしい。

⇒(市)現在の湯沢生涯学習センターについては、機能を無くすということではなく、さらに使い勝手が良くなることを目指しているため、現在活動されている方には心配なく御利用いただける施設にしたいと考えている。

⇒(アドバイザー)湯沢勤労青少年ホームを含め、総量を増やさずにどうやって機能をカバーしていくのか、多機能化を図りつつ、皆様の要望に応えられるのかを、これから議論していくこととなる。具体的な中身が決まったら、内容を説明したうえで、御意見を伺う機会があると思う。



○庁内各課との話し合いを重ねていて良いと思う。計画を作っているときは一生懸命で、その時の盛り上がりは良いが、できあがってしまうと萎んでしまう傾向がある。どのようにして結果を検証していくのか、検証結果が悪い時には、どのようにサポートしていただけるのかを含めて計画していただければありがたい。

⇒(アドバイザー)行政は計画を作ればゴールと捉えがちだが、この計画はスタートである。湯沢市がこれから将来にわたって持ちこたえられるような自治体になっていくのか、スタートを切ることになる。市民の皆様にも、よく見守っていただいて、厳しい目でお叱りいただくことが、一つのチェックになる。また、検討という言葉が多く、中々前に進まないこともある。市は検討という言葉が消えるような努力をしていきながら、私もアドバイザーとしてフォローアップをしていき、絵に描いた餅にしないよう進めていきたい。この計画は10年間のプランになっているが、10年で完成するわけではない。少なくとも5年位経った段階でもう一度点検し、できなかったものは、どこに支障があったのか、それを解消するにはどうすればいいのかを考えなければならない。できない理由を並び立てても説明責任を果たしたことにはならない。できるようにするにはどうしたらいいか知恵を絞っていくことが行政の役割と思うので、定期的に点検をし、年度ごとに進捗状況を市民の皆様にも提示していくことが必要である。

○市町村合併の際も不便はかけないといったが、実際は今まで近くにあったものが遠くなった。できないのだから、市民サービスの低下をきたさないということはあまり書いてもらいたくない。

⇒(アドバイザー)市民サービスの低下をきたさないというのは、公共施設の再編を行っていくための基本的な考え方である。公共施設をなくせば良いということではなく、中で行っているサービスが必要かどうかを検証して、サービスは必要だが施設そのものが持ちこたえられなければ中身を他の場所に移転しながら確保していくなど、サービスの低下をきたさないということが大原則と考えているので御理解いただきたい。

○これまで湯沢生涯学習センターや湯沢勤労青少年ホームを柳町に新設してもらうことをお願いしていた。駅前への整備は思っていたイメージと違うので、柳町として別の方法を考えなければと思った。

⇒(市)柳町の再開発事業については、御承知のとおり断念した。エリア別の再編計画として、サンロードから半径500mのエリアを中心市街地区として、公共施設の再配置の観点で、駅前に機能の複合化を図ることとした。

閉 会

20時20分終了